

東建パブリニュース

2020年1月22日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

2020年1月18日 日刊木材新聞 P. 1

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

建具ライン更新で多品種小ロットに対応

生産性30%アップで外販強化

ナスラック出雲工場

ナスラック（名古屋市長）は、出雲タンタニ工場（島根県出雲市）の木製建具等の生産ラインを更新し、加工速度と生産性を向上させるとともに、多品種小ロット生産への対応を図った。投資額は約2000万円。これにより建具及び収納製品の生産性は約30%向上することになる。

同工場はナスラックの国内5工場の一つで、親会社の東建コーポレーションのアウト・マンション向け及び材（室内ドア、ドア枠、クロゼット扉、収納家具、壁面収納、造作部材など）の供給基地とな

なっている。建具ラインは、これまで少品種大ロット生産を目的とした一貫型の連続式だった。異なる品種の商品を投入すると加工時間の差が発生しラインが停滞してしまう点、ライン全体が見渡せず作業員の有効活用が難しい点、正寸カット設備の位置が遠く移動時間のむだが生じていた点が問題となっていた。今回の更新により、

建具及び収納組み立てラインをU字型に集約して人員を集中配置するとともに、共通する加工（木口張りなどの）後にいったん製品を積み積するスペースを設けることで停滞の問題を解決。また、収納ラインの共用設備を建具ライン近くに配置して作業員の動線を改善した。これにより需要が増加している外販向け商品の製造、すなわち多品種小ロット生産と



ナスラック出雲工場

の両立が図られた。同社では、多品種小ロットの生産能力を生かしてコスト削減や人手不足に対応し、外販の売り上げ増加を目指していく方針だ。